

2010～2012 年度共同研究

「モノ・コト・時間の人類学——物質文化の動態的研究」

【趣旨】

近年人類学において物質文化の研究が盛んになってきた。しかしそれらの多くは、モノの背後にある社会関係の分析であったり、あるいはモノにまつわる言語表現の意味論であり、モノのマテリアリティに迫るものではなかった。本共同研究では、モノとヒトとの関係さらにその動態を様々な時間サイクルの中でとらえることによってモノ研究の新しい地平を開拓したい。

【共同研究員】

後藤 明 (南山大学人文学部・人類学研究所長)

石原 美奈子 (南山大学人文学部・第2種研究所員)

木田 歩 (南山大学人類学研究所非常勤研究員)

桑原 牧子 (金城学院大学文学部)

ムンシ, ロジェ・ヴァンジラ (南山大学外国語学部・第2種研究所員)

リースラント, アンドレアス (南山大学外国語学部・第2種研究所員)

サガヤラージ, アントニサーミ (南山大学人文学部・第2種研究所員)

坂井 信三 (南山大学人文学部)

佐々木 重洋 (名古屋大学文学部)

渡部 森哉 (南山大学人文学部・第2種研究所員)

山崎 剛 (南山大学人類学研究所非常勤研究員)

吉田 竹也 (南山大学人文学部・第2種研究所員)

【おもな研究活動】

第1回研究会 2010年5月26日

全体の打ち合わせ会議、小テーマの設定と発表者の決定

第2回研究会 2010年7月21日

【発表1】 渡部 森哉 「アンデス文明形成期の神殿社会」

【発表2】 坂井 信三 「歴史の中のモスク・時間の中のモスク」

第3回研究会 2010年10月6日

【発表1】 ムンシ, R.・ヴァンジラ 「キリシタン神社のもつ感性、価値、効果——枯松

神社と山神神社を事例に」

**【発表 2】** 後藤 明 「物質文化としてのテキスト——ハワイ日系移民における墓石研究の視座」

第4回研究会 2011年1月26日

**【発表 1】** 吉田 竹也 「沈黙とシュミラクルの絵画——バリ絵画のアポリティシズム論再考」

**【発表 2】** サガヤラージ, アントニサーミ 「インドにおける福音宣教とインカルチュレーションの課題」

関連ワークショップ 2011年5月24日

「「作ること」と「知ること」——世界をつかまえる新しい方法」

第5回研究会 2011年5月15日

**【発表 1】** リースラント, アンドレアス 「暴走族とメディア——見せるイメージと見られるイメージ」

**【発表 2】** 石原 美奈子 「「コーヒー」の価値と意味の変容——エチオピア・ジンマ地方の事例」

関連ワークショップ 2011年7月5日

「モノの象徴性とホモ・サピエンスの文化」

第6回研究会 2011年7月20日

**【発表 1】** 山崎 剛 「物質文化について考えない——ホモ・サピエンスの道具研究会の活動報告」

**【発表 2】** 木田 歩 「学ぶことの人類学」

公開研究会 2012年1月8日

「技術をモノ語る民族誌の苦悩と悦楽」

第7回研究会 2012年5月23日

**【発表 1】** 佐々木 重洋 「仮面の物質性再考」

**【発表 2】** 桑原 牧子 「エイジェントとしてのタトゥーと物質性の変化」

関連プロジェクト 2011～2012年度

「「作ること」と「知ること」——世界をつかまえる新しい方法」(活動詳細については別冊報告書参照)

その他ワークショップ・見学会などあり。

以上